

キセキ

本調子

中	
工	
工	
中	
工	
工	
尺	
中	
上	
上	
四	
上	
中	
中	

中	
尺	
中	
上	
四	
上	
四	

中	あ
工	し
工	た
中	き
工	う
工	よ
尺	り
中	も
上	す
上	き
四	に
上	な
中	れ
中	る

中	あ
尺	ふ
中	れ
上	る
四	お
四	も
合	い
中	が
尺	と
中	ま
四	ら
中	な
上	い

中	い
工	ま
工	も
中	こ
工	ん
五	な
中	に
上	す
中	き
上	で
四	い
上	る
中	の
中	に

中	こ
尺	と
中	ば
上	に
四	で
上	き
上	な
四	い

中	き
上	み
四	の
	く
	れ
	た
五	ひ
工	び
四	が
	つ
	み
尺	か
工	さ
五	な
工	り

四	す
尺	ぎ
工	さ
五	つ
工	た
	ひ
工	び
工	ふ
中	た
四	り
上	あ
四	る
上	い
四	た
上	き
中	せ
上	き
中	ぼ
	く

本調子

上	ら
四	の
	で
	あ
五	い
工	が
四	も
	し
	ぐ
	う
尺	ぜ
	ん
工	な
五	ら
工	ば
四	う
	ん

め	い	な	ら	ば	き	み	に	め	ぐ	り	あ	え	た	そ	れ	つ	て	き	せ	き
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

尺	めい
工	な
五	ら
工	ば
工	き
中	み
四	に
尺	めぐ
中	りあ
尺	え
工	た
五	それ
工	つて
五	きせ
六	き

ふたりよりそつてあるいてとわのあいをかたちにして

	ふ
	た
四	り
	よ
上	り
	そ
中	つ
	て
尺	
	あ
中	る
	い
上	て
	と
四	わ
	の
	あ
上	い
	を
中	
	か
尺	ち
	に
工	
	し
	て
四	

いつまでもきみのよこでわらっていたくてありが

	い
四	つ
上	ま
中	で
尺	も
工	き
五	み
工	の
中	よ
尺	こ
中	で
上	わ
工	ら
中	っ
上	て
工	い
中	た
	く
中	て
中	あ
	り
	が

どう	A	あい	ま	だ	たり
や	h	してる			な
	A	じゃ			
	h				

上	とう
四	や
五	A h
工	A h
中	あい
上	してる
四	じゃ
尺	ま
中	だ
中	たり

い
け
ど

せ
め
て
い
わ
せ

て

し
あ
わ
せ

で

す

と

(

あ

上	い
四	け
	ど
中	せ
	め
上	て
	い
四	わ
	せ
合	て
	し
	あ
四	わ
	せ
上	で
	す
老	と
四	
○	
○	

し
た
き
よ
う
よ
り
え
が
お
に
な
れ
る
き

中	し
工	た
工	
	き
中	よ
工	う
工	よ
尺	り
中	え
上	が
上	お
四	に
上	な
中	れ
中	る
	き

みがいでそうおもえるからな

中	み
尺	が
中	い
上	る
四	だ
四	けで
	そう
合	
	おも
尺	え
中	る
四	か
中	ら
上	
	な

3 / 3

一、明日今日よりも好きになれる
溢れる思いが止まらない
今もこんなに好きでいるのに言葉に
できない
君のくれた日々が積み重なり
過ぎ去った日々 二人歩いた「軌跡」
僕らの出会いがもし偶然ならば 運
命ならば
君にめぐり会えた それが「奇跡」
二人寄り添って歩いて 永久の愛を
形にして
いつまでも君の横で笑っていたくて
ありがとうや Ah
愛してるじゃまだ
足りないけど せめて言わせて「幸
せです」と

二、いつも君の右の手のひらを ただ僕
の左の手のひらが
そつと包んでく それだけで
ただ愛を感じていた
日々の中で小さな幸せ
見つけ重ねゆくり歩いた「軌跡」
僕らの出会いは大きな世界で
小さな出来事 めぐり会えたそれが
「奇跡」
うまくいかない日々だつて
二人でいれば晴れだつて
強がりや寂しさも忘れられるから
僕は君でなら
僕でいれるから
だからいつもそばにいてよ「愛しい
君」へ